

経営比較分析表（令和3年度決算）

熊本県 菊池市

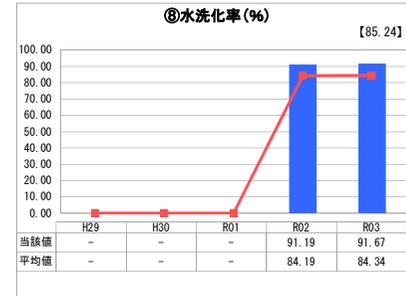
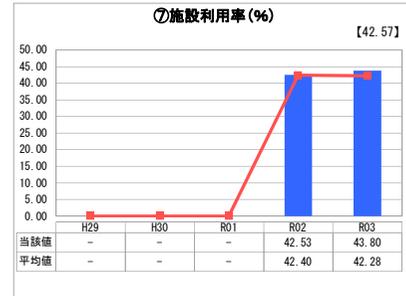
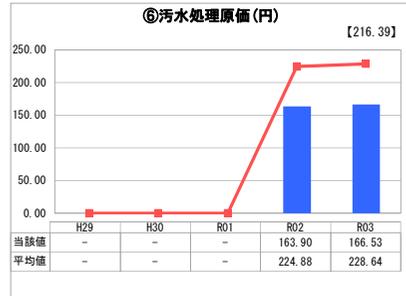
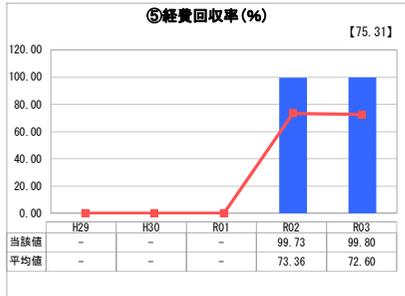
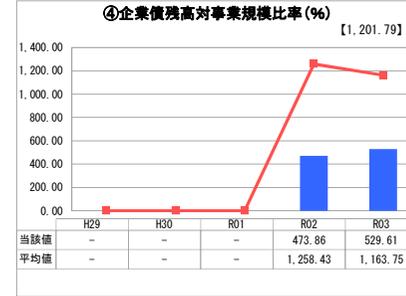
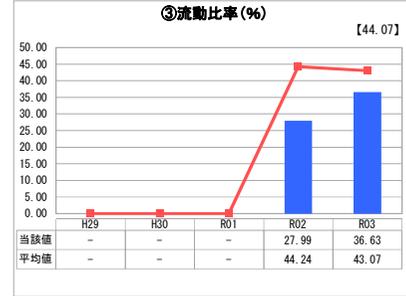
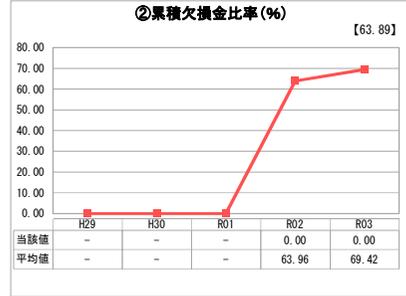
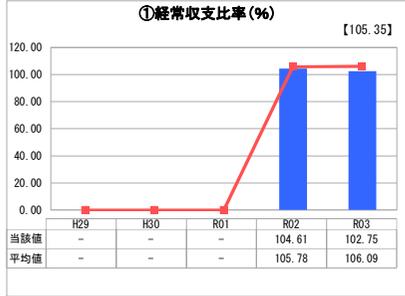
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.93	28.53	81.58	3,140

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,414	276.85	171.26
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,431	4.97	2,702.41

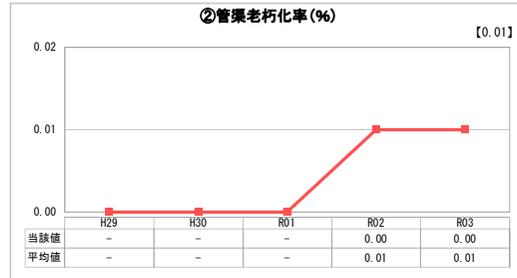
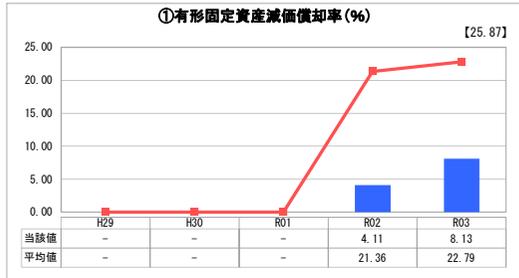
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を超え、また経費回収率もほぼ100%に近く、経営は安定している。流動比率は、前年度より少しは回復しているが依然低く運転資金としての現金が少ないことが要因であり改善策を検討し支払い能力の向上に努める必要がある。企業債残高対事業規模比率は類似団体と比較して低くなっているが、今後、処理場・管渠の更新事業等を実施していくと高くなっていくことが予想される。施設利用率については、類似団体とほぼ変わらないが、今後も水洗化率及び施設利用率の向上と使用料収入の増加を図る。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、法適用2年目であり今後上昇が見込まれる。管渠老朽化率は、平成11年に供用開始し耐用年数を迎えているものはないが、経年劣化により予防保全的な修繕や更新を行っていくことにより安定的な運営を図る必要がある。今後は計画的に更新・長寿命化を図っていく必要がある。

全体総括

現在の経営状況としては、概ね健全であると言える。今後は、ストックマネジメント計画により計画的な改築更新・長寿命化を実施していく。また人口減による使用料収入の減少が見込まれるため、汚水処理原価の抑制を図りながら経営戦略を基に適正な使用料を検討し、健全な事業運営を実施していく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。